

歴博くらしの植物苑だより

くらしの植物苑観察会 くらしの植物苑東屋 13:30～

第110回 『身近な山菜』 中川重年 (本館研究部客員教授)

第111回 『梅雨の植物』 中川重年 (本館研究部客員教授)

今週のみどころ <http://rekihaku.ac.jp>

伊勢ナデシコ (ナデシコ科ナデシコ属) 展示中

セキチクのなかまで、江戸時代に四季咲のトコナツと、細裂して糸状に長く伸びた花弁をもつイセナデシコなどの品種群を日本で育成しました。松坂伊勢地方で品種改良され、伊勢菊、伊勢花菖蒲とともに伊勢三珍花といわれます。



江戸時代中期、ナデシコはセキチクを中心に一重咲、八重咲、牡丹咲などが作出され好まれました。天保期に紀州藩士継松栄二が伊勢松坂に住み、花弁の長く垂れ下がるものを作成し、それ以降京都、大阪、伊勢、江戸で愛好家にひろがったといわれています(小笠原亮氏)。京都では京都の宝鏡寺によって御所撫子の名で栽培されています。当苑の伊勢ナデシコは小笠原氏よりの寄贈の鉢より種子繁殖したものを基にしています。

ナデシコの花形 『撫子培養手引き』(1863, 長谷酔香)には《単弁狂い》《吹詰》《単弁細鬚》《剣咲》《剣咲性毛咲》《匂い咲》《燕咲》に区分されていました。現在の伊勢ナデシコに近い花形は《単弁狂い》《単弁細鬚》《剣咲性毛咲》の3種で、松坂地方では花弁の特徴から、①花弁の肩が張らずに垂れ下がるもの、②花弁の肩が張って垂れ下がるもの、③花弁がよく縮れるもの、④花弁の幅が広いもの、⑤花弁が細くて周縁にひだがあり、大走咲になるもの、⑥八重咲のもの、に分けています。品位が高いと言われたのは①と③です。

ハンカチノキ

花にはたくさんの雄花と、1つの両性花がわかります。ここが雌しべです。



トチノキ

円錐花序には雄花と両性花がつきます。雄しべは長くつきだし、先は上を向いています。雄花では雌しべが退化しています。



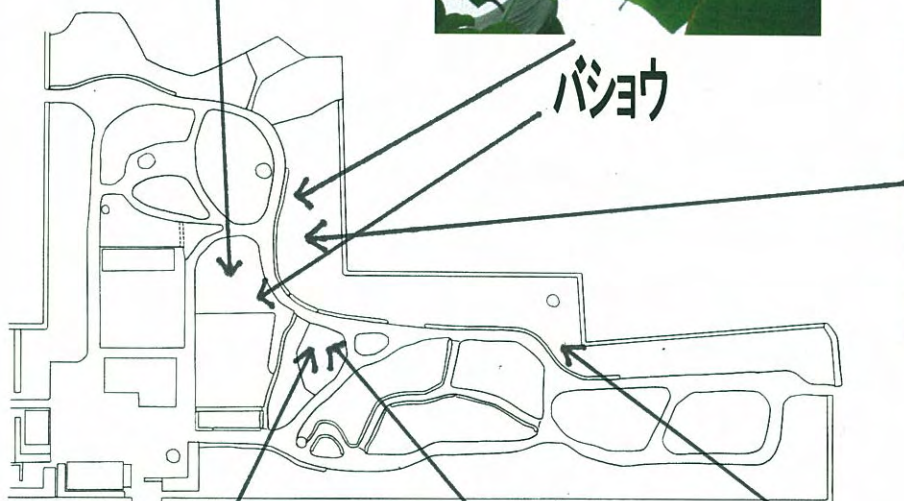
トウオガタマ

甘い香りがします



ユリノキ

すごいアップです。



トベラ(雄花)



イグサ



コウホネ



ホオノキ
この花は10時くらいから咲き始め、1時には満開になりました。